

授業概要

少子高齢化は、家族生活や家族形成に影響を与えるものであるが、その一方で、家族に関する意識・規範などが、少子高齢化の要因・背景として重要な意義をもっているのが日本社会の特徴である。このような動向を踏まえ、人口高齢化と人口減少、少子化と未婚化などに関する基本的な知識や実態を把握しながら、「少子高齢化」と「家族」の関係性について講義する。

授業計画

第1回	講義のねらいと全体像
第2回	人口の全体的動向について——人口転換モデルと人口ピラミッド
第3回	人口高齢化（1）——老年人口割合の推移と展望
第4回	人口高齢化（2）——長寿化による家族生活への影響
第5回	人口高齢化（3）——人口移動と老年人口割合の関係性
第6回	人口高齢化（4）——医療に関する動向と地域差
第7回	人口高齢化（5）——社会保障給付費の推移と将来推計
第8回	人口高齢化（6）——医療費の地域差と家族形態の関係性
第9回	少子化（1）——少子化に関する捉え方
第10回	少子化（2）——出生数・合計特殊出生率の推移とその背景
第11回	少子化（3）——少子化に関する考察
第12回	少子化（4）——少子化による影響
第13回	少子化（5）——少子化の要因
第14回	少子化（6）——少子化への対策
第15回	講義のまとめ

到達目標

- ・人口高齢化・少子化と家族の関係性および家族生活への影響に関する特徴や課題を指摘することができる。
- ・わが国における少子化の要因・特徴と女性の働き方における実態を客観的に捉えることができる。
- ・なぜ日本は20年以上も少子化対策を実施しながら少子化を是正することができないのかを説明することができる。

履修上の注意

私語、無断の出入り、他の受講者に迷惑となる行為、受講中にすべきでない行為等については減点となる。講義開始後30分までを遅刻とし、それ以降については欠席とみなすが、公共交通機関の遅延など特別の事情がある場合には考慮する。
また、家族論Ⅰを未履修の場合でも、本講義を履修することは可能である。

予習・復習

参考文献や新聞などから、取り上げるテーマやキーワードについて簡単な予備知識を備えておく。その日に学習した内容を、前回までの内容とのつながりを意識しながら振り返り、整理しておく。

評価方法

成績は、課題レポートと平常点を総合的に勘案して評価する。
配分は、課題レポート50%、受講態度や取組姿勢等25%、リアクションペーパーや作業プリント25%である。

テキスト

プリント資料を配付（配信）する。
参考文献：清水浩昭ほか著、2019、『新訂 少子高齢化社会を生きる』人間の科学新社。